



医療連携ニュース



2019年12月号

発行 東海大学医学部附属八王子病院 患者支援センター 医療連携室 TEL:042(639)1114 FAX:042(639)1115

寒気の候、貴施設におかれましては益々ご繁栄のこととお慶び申し上げます。
平素は、当院の運営にご理解とご助力を賜り、また、多数の患者様をご紹介いただき、厚く御礼申し上げます。
このたび、東海大学医学部附属八王子病院医療連携ニュース2019年12月号を発行いたしました。
先生方が、ますます当院との医療連携を深めていただく、一助となれば幸いです。

患者支援センター長 野川 茂、 医療連携室長 角田 隆俊



心房細動治療における新技術の紹介

東海大学医学部附属八王子病院
循環器センター長、循環器内科医長、准教授 森田典成
専門医、認定医: 日本不整脈心電学会 不整脈専門医
日本循環器学会 循環器専門医
日本内科学会認定総合内科専門医

当科の診療および治療の3本柱は、狭心症および心筋梗塞などの心臓を栄養する冠動脈に対する心臓カテーテル治療、不整脈に対するカテーテルアブレーション(心筋焼灼術)、ペースメーカーなどのデバイス植込み治療、心不全や心筋梗塞後の患者さんへの心臓リハビリテーションです。

私自身は不整脈に対する薬物、非薬物療法を専門とし、日々アブレーションによる不整脈の根治に従事しております。近年は、人口の高齢化により心房細動患者さんは増加の一途をたどり、2030年には心房細動患者数は100万人を超えると推計されています。心房細動は脳梗塞および心不全の原因となる疾病であり、適切な治療介入による根治が望まれます。

当院では従来の高周波カテーテルアブレーション以外に、2014年7月から心房細動治療に冷凍凝固アブレーションを開始し、本邦における第3例目の患者さんを皮切りに現在までに約360例の治療実績を収めています。2018年8月からは全国に先立って心房細動の治療ターゲットとなる肺静脈内部を可視化できるレーザーバルーンシステムを導入しております。現在の当院におけるレーザーバルーン治療実績は都内3位です。心房細動とは心房内に台風のような渦巻き状の電気興奮が生じる状態で、左心房に流入する肺静脈内での異常電気興奮に起因します。その肺静脈と左心房との電氣的絶縁を行うことで治療することができます。レーザーバルーンシステムは肺静脈入口部をバルーンで閉塞させ、内部の内視鏡から肺静脈の内面を観察できる画期的なシステムであり、リアルタイムに観察しながら肺静脈入口部の壁をレーザーで焼灼します。

今後も、日々新しい技術を導入し、安全かつ最善の医療を提供するようスタッフ一同協力し、取り組んで参ります。



レーザーバルーンシステム



アブレーション治療風景



治療を支えるME科スタッフ

乳腺・甲状腺疾患などの診断や治療による地域医療への貢献



東海大学医学部付属八王子病院

乳腺内分泌外科医長 講師 齋藤雄紀 医師

専門分野:乳がんに対する縮小手術・薬物療法、甲状腺腫瘍性疾患の縮小手術

甲状腺がんの薬物療法

悪性腫瘍患者に対する診断時からの緩和療法

原発不明がん・稀少がんの診断と薬物療法

専門医・認定医:日本外科学会外科専門医・指導医

日本乳がん学会乳腺専門医・指導医

日本臨床腫瘍学会癌薬物療法専門医・指導医

日本超音波医学界超音波専門医・指導医

検診マンモグラフィ読影認定医

日本がん治療認定医機構がん治療認定医

リンパ浮腫療法士、日本医師会認定産業医

外来担当日 :火曜日

乳腺内分泌外科は2012年4月に開設し今年で7年目を迎えました。現在は常勤医2名で診療を行っています。私が担当している診療内容は、「乳腺疾患」、「甲状腺の腫瘍性疾患」、「緩和治療」、「原発不明がんの診断と治療」の4つです。それぞれについて内容を簡単にご説明します。

・乳腺疾患:診断は初診日にマンモグラフィ・超音波検査を行い、その日のうちに結果をご説明しています。組織検査が必要な症例は1週間以内に実施し、迅速に診断することを心がけています。乳がんの治療は個別化と低侵襲化を考慮しつつエビデンスに基づく治療を基本とし、さらに新しい研究成果や新規薬剤を積極的に導入して最善の治療を提供しています。さらに患者さんにとってよりよい医療が受けられるよう、形成外科、病理診断科、放射線診断科や放射線治療科などの関連各科医師とも連携・相談をして治療を選択しています。

・甲状腺腫瘍性疾患:腫瘍の診断に対しては超音波検査と細胞診断を迅速に行い、良悪性鑑別困難な腫瘍や甲状腺がんに対しては積極的に手術を行っています。2020年1月からは、傷の目立たない内視鏡を用いた手術も開始します。また甲状腺がん再発時の薬物療法も多く行っています。

・緩和治療:現在の緩和ケアは「がんと診断された時からの介入」が重要と言われています。患者さんがよりよい生活を送りながら治療を受けられるよう、積極的にがん診療に緩和医療を導入しています。また当院全ての診療科の外来・入院患者を対象として、私が身体的苦痛の緩和治療に携わっています。

・原発不明がん:現在でも十分な検索にもかかわらず原発部位が不明であり、組織学的に転移部位のみが判明している悪性腫瘍があります。このような症例に対して可及的速やかに治療ができるよう、必要最小限の検査でがん腫を特定もしくは推定を行っています。そしてそのがん腫に基づいた治療のため、専門病院や診療科の紹介もしくは当科で薬物療法を行っています。

乳腺疾患・甲状腺疾患・原発不明がんの診断から手術、薬物療法、再発時の治療、さらに診断時からの緩和療法まで、一貫して私が担当医となり、ご紹介下さいました患者さんが安心して満足いただけるような治療の提供を心がけています。

上記を一人で担当していることから何かと至らずご迷惑をおかけすることがあるかと存じますが、今後も南多摩地域の医療のため微力ではありますが診断・治療に全力で取り組む所存です。

これからも何卒よろしくお願い申し上げます。

医療連携室からのお知らせ

当院では、午前8時から11時までに来院された初診患者様は、予約の有無にかかわらず診療いたします。(一部の診療科を除く)

ご紹介におかれましては、紹介状を作成いただき、当日に持参いただければ幸いです。なお、従来の事前予約による診療も行っております。

診療受付時間:月曜日～金曜日、第2・4・5土曜日 8:00～11:00

休診日:日曜日・祝日、第1・3土曜日、11月1日(建学記念日)、12月29日～1月3日

医療機関専用ダイヤル 042-639-1114

平日8:30～16:30、第2,4,5土曜日 8:30～14:30

医療機関専用ファックス 042-639-111524

時間対応 * 受付時間以降の受信は、翌日対応となります。

一般ダイヤル 042-639-1111(代表)

平日8:30～16:30、第2,4,5土曜日 8:30～14:30